

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

発生予察情報の送付について  
病虫害発生予察特殊報（第 3 号）を下記のとおり発表したので送付します。

## 令和 3 年度 病虫害発生予察特殊報（第 3 号）

令和 3 年 12 月 1 日  
愛 媛 県

病虫害名 ネギハモグリバエ B 系統 *Liriomyza chinensis* Kato  
作物名 ねぎ  
特殊報の内容 愛媛県における発生の初確認

## 1 発生経過

- 令和 3 年 9 月に西予市の露地ネギ栽培圃場において、ハモグリバエ類による著しい食害痕や葉の白化症状が確認された（写真 1）。この被害状況は従来のネギハモグリバエ（以下、A 系統）と異なり、他都府県で発生が認められているネギハモグリバエ別系統（以下、B 系統）に類似していた。このため、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構野菜花き研究部門に遺伝子解析による同定を依頼したところ、本県では初確認となる B 系統であることが確認された。
- これを受け、令和 3 年 9 月以降、県内のネギにおいて被害状況調査を行ったところ、各地で同様の被害が確認された。

## 2 他県での発生状況

B 系統の発生は、平成 28 年に京都府で初めて確認されて以降、茨城県、富山県、千葉県、長野県、埼玉県、新潟県、栃木県、三重県、滋賀県、大阪府、愛知県、東京都、佐賀県、岐阜県、鳥取県、兵庫県、岩手県、秋田県、福島県、鹿児島県、福岡県、山形県、宮城県、大分県、青森県、山口県及び島根県の 28 都府県において確認されている。

## 3 害虫の特徴

- B 系統は A 系統に比べ 1 葉当たり寄生幼虫数が多く、集中的に加害する傾向にある。
- B 系統による初期の食害は、A 系統と同様に不規則な白線状であるが、食害が進むと近接した複数の食害痕が癒合し、葉が白化する（写真 1）。
- B 系統の寄主範囲は解明されていないが、A 系統はねぎの他、たまねぎ等のネギ属植物を加害する。

## 4 形態及び生態

- B 系統は A 系統と形態的な差異が認められず、外観による識別は困難である。
- 幼虫はうじ虫状で、成長すると体長約 4 mm に達する（写真 2）。蛹は体長約 3 mm の褐色、俵状である。
- 成虫の体長は約 2 mm で、胸部と腹部は黒く、その他の部分は淡黄色である（写真 3）。
- 両系統とも成虫は葉の組織内に産卵し、ふ化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表又は土中で蛹になる。

## 5 防除対策

- ネギハモグリバエまたはハモグリバエ類に適用のある薬剤により、発生初期の防除を徹底する（表 1）。なお、薬剤抵抗性害虫出現防止のため、同一系統薬剤の連用を避ける。
- 被害葉及び収穫残渣は発生源となるので、圃場に放置せず適切に処分する。



写真1 ネギハモグリバエ (B 系統) の被害



写真2 ネギハモグリバエ (B 系統) 幼虫



写真3 ネギハモグリバエ (B 系統) 成虫

表1 ネギハモグリバエに使用できる薬剤一覧（令和3年度愛媛県農作物病害虫等防除指針抜粋）

使用薬剤	IRAC コード	濃度(使用量)	使用時期	使用回数	注意事項
アルバリン粒剤	4A	6kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和
スタークル粒剤	4A	6kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和
ダントツ粒剤	4A	6kg/10a	は種時	1回	作条処理土壌混和
プレバソフロアブル5	28	100倍	育苗期後半～定植当日	1回	使用方法(注1)
ベリマークSC	28	400倍	育苗期後半～定植当日	1回	使用方法(注1)
ジュリボフロアブル	4A+28	200倍	育苗期後半～定植当日	1回	使用方法(注1)
アベイル粒剤	4A+28	40g	育苗期後半～定植当日	1回	使用方法(注2)
アドマイヤーフロアブル	4A	200倍	定植前日～定植時	1回	使用方法(注1)
アルバリン顆粒水溶剤	4A	50倍	定植前日～定植時	1回	使用方法(注1)
スタークル顆粒水溶剤	4A	50倍	定植前日～定植時	1回	使用方法(注1)
キックオフ顆粒水和剤	4A+28	100倍	定植前日～定植時	1回	使用方法(注1)
モスピラン粒剤	4A	0.25～0.5g/株	定植前日～定植当日	1回	株元散布
モスピラン粒剤	4A	6kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和
アクタラ粒剤5	4A	6～9kg/10a	植付時	1回	作条混和
ダントツ粒剤	4A	6kg/10a	植付時	1回	植溝処理土壌混和
ベストガード粒剤	4A	6kg/10a	定植時	1回	植溝処理土壌混和
ダントツ粒剤	4A	3～6kg/10a	収穫3日前まで	4回以内	株元散布
アルバリン粒剤	4A	6～9kg/10a	生育期但し、収穫3日前まで	2回以内	株元散布
スタークル粒剤	4A	6～9kg/10a	生育期但し、収穫3日前まで	2回以内	株元散布
ブリロソソ粒剤	28	6kg/10a	収穫前日まで	3回以内	株元散布
アルバリン顆粒水溶剤	4A	400倍	生育期但し、収穫14日前まで	1回	0.4ℓ/m <sup>2</sup> 株元灌注
スタークル顆粒水溶剤	4A	400倍	生育期但し、収穫14日前まで	1回	0.4ℓ/m <sup>2</sup> 株元灌注
ダントツ水溶剤	4A	2,000～4,000倍	収穫3日前まで	4回以内	
アクタラ顆粒水溶剤	4A	1,000～2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	
ディアナSC	5	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	
アフファーム乳剤	6	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	
アグリメック	6	500～1,000倍	収穫3日前まで	3回以内	
コテツフロアブル	13	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	
カスケード乳剤	15	4,000倍	収穫14日前まで	3回以内	
プレバソフロアブル5	28	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	
ベリマークSC	28	2,000倍	収穫7日前まで	1回	株元灌注0.5ℓ/m <sup>2</sup>
ベネビアOD	28	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	
グレーシア乳剤	30	2,000～3,000倍	収穫7日前まで	2回以内	

使用方法（注1）：セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ）当たり0.5ℓ灌注

使用方法（注2）：セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊（約30×60cm・使用土壌約1.5～4ℓ）当たり40g